

2025年2月13日

<サステナビリティ情報>

報道関係者各位

三陽商会

2024年度CDP質問書の気候変動分野において「B」スコアに認定

株式会社三陽商会（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：大江伸治）は、2024年度CDP質問書の気候変動分野に回答し、その結果、「自社の環境リスクや影響について認識し、行動している」と評価されたことを示す「B」スコア（マネジメントレベル）に認定されました。

CDPは地球環境問題に関する国際NGOで、世界中の企業や自治体から収集した環境に関する情報開示を集計・分析し、その取り組みを8段階（A、A-、B、B-、C、C-、D、D-）で評価しており、今回当社が認定された「B」スコアは、8段階中上位から3番目となります。



■ CDPの気候変動質問書への回答と結果

CDPは、世界の企業や組織の環境問題への取り組みについて調査・分析を行い、その評価結果を公開している国際的な環境非営利団体です。CDPの環境情報開示システムとその評価プロセスは、企業の環境情報開示におけるグローバルスタンダードとして広く認知されています。

気候変動対策の透明性向上に向けて、2024年度はCDPを通じて環境データを報告する企業が24,800社以上（前年比7%増）に達し、日本でもプライム市場上場企業の7割以上を含む2,100社以上が情報開示に参加、世界的に標準化された環境データの重要性が高まっています。

当社は、2022年度よりCDP質問書を通じた情報開示を行い、2024年度は気候変動質問書の回答を提出しました。その結果、「自社の環境リスクや影響について認識し、行動している」企業として評価され、8段階中上位から3番目となる「B」スコア（マネジメントレベル）に認定されました。

CDP公式WEBサイト：<https://cdp.net/ja>

■ 三陽商会の気候変動対策

三陽商会は、2023年より「持続可能な地球環境への貢献」をマテリアリティの一つに掲げ、事業活動に伴う温室効果ガス（GHG）排出量の削減を通して気候変動対策に取り組んでいます。2021年に設置されたサステナビリティ委員会を中心となり、温室効果ガス排出量の削減目標を設定し、その管理を行っています。具体的には、2030年度までに Scope1・2のGHG排出量を2019年度比50%削減、Scope3を30%削減、さらに2050年度までに Scope1・2のGHG排出量をネットゼロにすることを目指しています。

これらの目標達成に向けて、当社は様々な施策を実施しています。エネルギー使用削減の取り組みとして、店舗やオフィスへのLED照明の導入による省エネルギー化の推進に努めており、2024年12月に東京四ツ谷の本社ビルを再生可能エネルギー100%の電力に切り替えました。これにより、2030年までに自社ビルをCO2排出ゼロの電力に変更する計画を実現しました。

また、環境配慮型素材を使用した製品づくり、在庫削減と仕入管理による廃棄削減、店頭や物流におけるプラスチック使用削減とリサイクル等に取り組んでいます。2024年3月より、当社の3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動の総称を「SANYO RE: PROJECT（サンヨー・リ・プロジェクト）」とし、その一環として、新たな衣料回収活動や認定リユース品「RE: SANYO（リ・サンヨー）」の販売も開始しました。

当社はこれらの取り組みを通じて気候変動対策を推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。今後も、全社を挙げてサステナブルな社会の実現に貢献することを目標に、事業を推進してまいります。

三陽商会のサステナビリティ：<https://www.sanyo-shokai.co.jp/company/sustainability/>

■ 株式会社三陽商会 概要

『ファッションを通じ、美しく豊かな生活文化を創造し、社会の発展に貢献します。』という経営理念のもと、「いつの時代でも変わらぬ価値のあるものづくり」を目指して事業を推進している総合アパレルメーカーです。

本社所在地 : 東京都新宿区四谷本塩町 6-14
設立年月日 : 1943年5月11日
代表者 : 代表取締役社長 大江 伸治
事業内容 : 紳士服・婦人服及び装飾品の製造販売
 全国の百貨店、専門店、直営店での製品の販売
公式WEBサイト：<https://www.sanyo-shokai.co.jp/>

SANYO

以上

<この件に関する消費者からのお問い合わせ先>

株式会社三陽商会 カスタマーサポート：0120-340-460 受付時間：11：00-17：00（平日のみ）